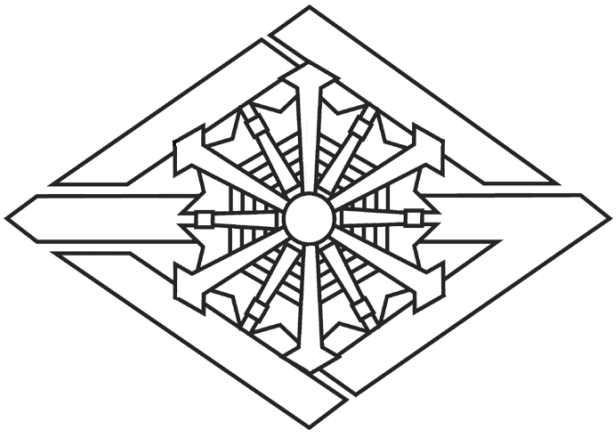
防火水槽工事仕様書



横浜市消防局

令和７年度改正版

目　次

１　通　則

１－１　適用範囲 …… 1
１－２　疑義の解釈 …… 1
１－３　用語の定義 …… 1
１－４　提出書類 …… 1
１－５　防火水槽占用地 …… 1
１－６　工事記録写真 …… 1

２　材　料

２－１　材料一般 …… 2
２－２　二次製品防火水槽等 …… 2
２－３　鉄蓋及び蓋枠 …… 2
２－４　防水剤（材） …… 2
２－５　設置年度プレート …… 2
２－６　中心杭 …… 3
２－７　消防水利標識 …… 3
２－８　境界杭 …… 3
２－９　フェンス …… 3
２－10　舗装材 …… 3
２－11　その他 …… 3

３　工事施工

３－１　工事の着手 …… 4
３－２　工作物の移動、撤去 …… 4
３－３　工作物の復旧 …… 4
３－４　雑工 …… 4
３－４－１　鉄蓋枠取付工 …… 4
３－４－２　中心杭設置工 …… 4
３－４－３　設置年度プレート設置工 …… 4
３－４－４　標識設置工 …… 5
３－５　防火水槽占用地整形工 …… 5
３－５－１　境界杭設置工 …… 5
３－５－２　フェンス設置工 …… 5
３－５－３　コンクリート舗装工 …… 5

４　　検査・確認

４－１　　検査・確認の種類　……6
４－１－１　段階確認　……6
４－１－２　完成検査　……6
４－１－３　水張検査　……6
４－２　　検査・確認結果の補修　……6
４－３　　設置用地管理者による確認　……6

別表　１　　工事記録写真撮影箇所（現場打設）　……7
別表　２　　工事記録写真撮影箇所（コンクリート二次製品）……8
別表　３　　工事記録写真撮影箇所（鋼製二次製品）……9
別表　４　　段階確認区分（現場打設）　……10
別表　５　　段階確認区分（コンクリート製二次製品）……11
別表　６　　段階確認区分（鋼製二次製品）　……12
別表　７　　撤去工事記録写真撮影箇所及び段階確認区分……13
別図　１　　横浜市型防火水槽鉄蓋及び受枠仕様　……14
別図　２　　設置年度プレート及び中心杭参考図　……21
別図　３　　消防水利標識参考図（防火水槽）　……22
別図　４　　消防水利標識参考図（指定水利）　……23
別図　５　　境界杭及びフェンス参考図　……24

1　通　則

1－1　適用範囲

1　本仕様書は、横浜市消防局が発注する防火水槽の新設及び撤去工事等（以下「工事」という。）に適用する。

2　本仕様書に明記されていないものについては、横浜市土木工事共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）によること。

1－2　疑義の解釈

本仕様書に定める事項及び工事施工について疑義を生じた場合は、監督員と協議してその指示に従うこと。

1－3　用語の定義

本仕様書における用語の定義は、共通仕様書によるほか、次によるものとする。

(1) 監督員とは、横浜市請負工事監督事務取扱規程第４条により工事の監督を命ぜられた職員をいう。

(2) 設計図書とは、設計書（鑑・内訳書・共通単価表）、案内図、図面、仕様書、現場説明書及びこれらの図書に対する質問回答書をいう。

(3) 二次製品防火水槽等とは、一般財団法人日本消防設備安全センターにより認定された二次製品防火水槽及び二次製品耐震性貯水槽をいう。

(4) 技術検査員とは、横浜市請負工事検査事務取扱要綱第３条により工事の検査を命ぜられた職員をいう。

1－4　提出書類

共通仕様書による。

1－5　防火水槽占用地

設置する防火水槽の外壁から各隣地境界線まで１ｍ以上の保有距離が確保できるように境界杭を設置し、フェンスで囲うものとする。

なお、防火水槽占用地内地表面はコンクリート舗装とし､ハケ引き仕上げ等をおこない､照り返しの少ない舗装とすること。

1－6　工事記録写真

共通仕様書によるほか、別表１から別表３、さらに撤去工事にあっては別表８に示す工程で記録写真を撮影し､完成検査時に施工場所ごとにアルバムに編集して提出すること。

(1) 写真撮影するときは、工事場所、工程を示した黒板及びスケール

等を添えること。
(2) 写真は、カラーサービス版を標準とし、施工順序に従って編集すること。
(3) 画面の説明はアルバムの余白に記入すること。
(4) 写真データは整理して工事完成後３年間保存すること。
(5) アルバム台紙はＡ４判左綴じとし、表紙には工事件名、工事場所、工事期間、施工業者名を記入すること。

２　材　料

２－１　材料一般

監督員と調整の上、使用材料は使用前に監督員へ材料承認承諾願を提出し、承認を得ておくこと。

２－２　二次製品防火水槽等

二次製品防火水槽等を用いる場合は、設計図書に示された型状及び主材料と同等以上のものとし、構造図面、各種計算書、施工要領書等を監督員に提出し承認を得るものとする。また、日本消防設備安全センターの発行する認定証（個別認定）を取得するものとする。

なお、二次製品を用いる場合の各部材及び施工要領については、承認されたメーカーの仕様とする。ただし、現場打ち部材及び特別な明示のある場合を除く。

※二次製品防火水槽等とは、一般財団法人日本消防設備安全センターにより認定された二次製品防火水槽及び二次製品耐震性貯水槽をいう。

２－３　鉄蓋及び受枠

鉄蓋及び受枠は、設置場所により別図１の規格（仕様１又は仕様２）から選定することとし、監督員からの指示によるものとする。

また、地域特性等により、仕様３の鉄蓋とする場合があるため、監督員と協議すること。

２－４　防水剤（材）

躯体の内面がコンクリートの場合は、無機質セメント系の塗膜防水剤を使用するものとし、使用材料承諾願に製造元発行のパンフレット、物性表、施工要領書等を記載し、監督員の承認を受けること。

２－５　設置年度プレート（別図２）

設置年度プレートは縦80㎜、横120㎜のアルミ板と同等以上の素材で赤地に白文字とする。

２－６　中心杭（別図２）

中心杭は、原則有害な亀裂、傷等のない縦横75㎜、高さ450㎜の直方体のコンクリート十字標杭とする。ただし、コンクリート標杭の埋設不可能な地表面の場合は、直径20㎜の鉄鋲を使用する。

２－７　消防水利標識（別図３）

標識板は、φ600㎜、厚さ1.2㎜のアルミ単板で、共通仕様書に定めるカプセルレンズ型反射シートを施した高輝度反射板とする。支柱はφ60.5㎜×2㎜×3300㎜のステンレスパイプ（SUS304）とする。

基礎部のアンカー鋼は、厚さ3㎜、巾20㎜、長さ300㎜の等辺山形鋼を使用する。

２－８　境界杭（別図５）

防火水槽占用地に埋設する境界杭は、原則として有害な亀裂等のない縦横70㎜～90㎜、高さ450㎜～600㎜の直方体コンクリートの矢印標杭とする。

２－９　フェンス（別図５）

防火水槽占用地に設置するフェンスは、高さ1,500㎜のネットフェンスとし、色調は原則としてライトグリーンとする。ただし、都市景観上の調和のため必要がある場合等は、監督員の指示により、パイプフェンス及び他の色調とすることができる。

２－10　舗装材

防火水槽占用地内の舗装材は、路盤材はクラッシャーランＲＣ－40、表層材は均しコンクリートとする。

２－11　その他

上記以外の規格については、監督員の指示による。

３　工事施工

３－１　工事の着手

工事は４－１－２に定める区分ごとに監督員の段階指示のもと随時確認を受け、合格した後でなければ次の工程に着手してはならない。

なお、水槽の位置決めは、監督員及び関係者の立会いで行う。

また、所定の深さを確保するために、工事占用区域内の工事の影響を受けにくい場所に仮ベンチマークを設定し、常に測定しながら施工すること。

３－２　工作物の移動、撤去

工作物（境界石等は除く）、樹木、その他で移動、撤去が必要なものは、関係者の承諾を得て写真撮影及び図面作成を行った後、工事を行うこと。

３－３　工作物の復旧

３－２で移動、撤去を行ったもののうち、復旧が必要なものは写真等をもとに原状に復すること。

３－４　雑工

３－４－１　鉄蓋枠取付工

鉄蓋枠の取付は、無収縮性モルタル及びアンカーボルト（M16×100）３箇所で行うものとし、その高さは指示がない限りＧＬ±０㎝とする。

なお、二次製品防火水槽で、アンカーボルトの取り付けが困難なものについては、鉄蓋枠周囲の舗装等を強固にすることにより支持すること。

３－４－２　中心杭設置工

防火水槽の埋設位置を明確にするため、頭部を黄色ペンキ等で着色したコンクリート標杭を防火水槽頂版の中心（角型の場合は対角線の交点とする。）上部に埋設すること。

その際、中心杭の埋設場所が公園の園庭の場合は公園管理者の指示によることとし、その他の場合は、別に指示のない限りＧＬ±０㎝で埋設すること。

なお、標杭の設置が困難な場合は、頭部を黄色ペンキ等で着色した鉄鋲をＧＬ±０㎝で埋設すること。

ただし、埋設場所の状況等により中心杭の設置が適切でない場合は、監督員の指示により設置を省略することができる。

３－４－３　設置年度プレート設置工

設置年度プレートは、投入孔最上部壁体の監督員の指示する箇所に、接着剤とコンクリート釘（設置場所がコンクリート面の場合。）で脱落しないように設置すること。

なお、二次製品防火水槽の場合は、吸管投入口調整ブロックに直接釘穴をあ

けることは避け、吸管投入口調整ブロックと鉄蓋枠の隙間や段差を調整する調整モルタルを利用すること。

３－４－４　標識設置工

標識設置位置は、監督員の指示する場所とし、標識取付金具はアルミ合金、ボルトはステンレス製（SUS304 M8×30㎜）を使用し、支柱上部には上蓋（SUS304φ65×25㎜）を取付けること。なお、設置高は建築限界を考慮し設置する。

ただし、標識の設置に適切と思われる場所が無い場合は、監督員の指示によるものとする。

３－５　防火水槽占用地整形工

３－５－１　境界杭設置工

境界杭は、頭部を赤色ペンキ等で着色した標杭を、矢印を境界点に向け境界線の内側にＧＬ＋５㎝程度に埋設すること。

なお、人の通行及び構築物等に支障のある場合は、ＧＬ±０㎝とする。

３－５－２　フェンス設置工

フェンスは、境界杭の内側に支柱基礎が接する位置に、使用するフェンスメーカーの仕様で設置すること。

扉はフェンスと同等の材質で、幅90㎝以上の内開きとし、監督員の指定する鍵を取り付けるものとする。

３－５－３　コンクリート舗装工

舗装厚は、路盤（ＲＣ－40）10㎝以上、表層（2-7表の均しコンクリート同等品）７㎝以上で施工するものとする。

４　検査・確認

４－１　検査・確認の種類

検査・確認は監督員及び消防局担当者立会のもと行うこととし、検査・確認の種類は、次の４種類とする。

１　材料検査
２　段階確認
３　完成検査
４　水張検査

請負人は、検査・確認を行う時は、立会わなければならない。（水張検査を除く。）

４－１－１　段階確認（中間検査）

請負人は、別表４から別表６、さらに更新工事については別表７に定める区分に従って段階確認（中間検査）を受けるため、事前に監督員及び消防局担当者と時期等について協議すること。

４－１－２　完成検査（躯体工の検査）

完成検査は、防火水槽設置工事がすべて終了した時に行う。その際請負人は、工事関係図書及び記録写真を提出するとともに、検査に必要な器具（はしご、照明器具、レベル、巻尺、スコップ、ウエス等）を用意すること。

４－１－３　水張検査

水張検査は４－１－２の検査に合格したものについて行い、吸管投入孔　上端まで充水し、一定期間測定し、その結果１ヶ月で50㎝以上減水したものについては、監督員及び消防局担当者と協議して補修等必要な処置を行うこと。

４－２　検査・確認結果の補修

検査・確認実施時に監督員、技術検査員及び消防局担当者から指摘された事項は、速やかに補修し、監督員の確認を受けること。

４－３　設置用地管理者による確認

４－１－２の検査を終了した後、必要に応じ復旧物について用地管理者の確認を受けること。

別表　1

工事記録写真撮影箇所（現場打設）

	開削工法	オープンケーソン工法
1	着工前の状況（全景、工事影響部分、撤去復旧物の個別撮影）	着工前の状況（全景、工事影響部分、撤去復旧物の個別撮影）
2	位置決め、仮ベンチマーク設置	位置決め、仮ベンチマーク設置
3	仮囲い工（全景、出入口、広報標識）	仮囲い工（全景、出入口、広報標識）
4	山留工、掘削工、水替工	一次掘削工
5	基礎工	側版配筋工、型枠工（配筋状況を詳細に確認できるように撮影すること）
6	底版配筋工（上筋、下筋を個別に全体が入るよう撮影すること）	側版コンクリート工（ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ採取状況含む）
7	止水板設置工	止水板設置工
8	底版コンクリート工（ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ採取状況含む）	ケーソン掘削工、水替工
9	側版･頂版配筋工、型枠工 （上筋、下筋、内筋、外筋を個別に撮影すること）	沈下工（床付け時の水平確認状況）
10	側版・頂版ｺﾝｸﾘｰﾄ工（ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ採取状況含む）	基礎工（割栗石敷設、検測状況及び均しコンクリート打設状況）
11	蓋取付工	底版配筋工（上筋、下筋を個別に全体が入るよう撮影すること）
12	躯体工出来形	止水板設置工
13	埋戻し転圧工	底版コンクリート工（ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ採取状況含む）
14	防水工	頂版型枠工、配筋工（上筋、下筋を個別に全体が入るよう撮影すること）
15	復旧工（撤去復旧した物は個別に撮影すること）	頂版コンクリート工（ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ採取状況含む）
16	標識（基礎工含む）、~~中心杭設置工~~	蓋取付工
17	工事完了状況（全景、工事影響部分）	埋戻し転圧工
18	その他監督員から指示のあった工程	防水工
19		復旧工（撤去復旧した物は個別に撮影すること）
20		標識（基礎工含む）、~~中心杭設置工~~
21		工事完了状況（全景、工事影響部分）
22		その他監督員から指示のあった工程

別表　2

工事記録写真撮影箇所（コンクリート二次製品）

	開削工法	オープンケーソン工法
1	着工前の状況(全景、工事影響部分、撤去物の個別撮影)	着工前の状況(全景、工事影響部分、撤去物の個別撮影)
2	位置決め、仮ベンチマーク設置	位置決め、仮ベンチマーク設置
3	仮囲い工（全景、出入口、広報標識）	仮囲い工（全景、出入口、広報標識）
4	山留工、掘削工、水替工	一次掘削工
5	基礎工	側版ｾｸﾞﾒﾝﾄ搬入状況（個別認定番号）
6	セグメント搬入状況（個別認定番号）	側版組立状況(ﾎﾞﾙﾄ締付け・ｽﾄﾗﾝﾄﾞ緊張)
7	本体組立状況(ﾎﾞﾙﾄ締付け・ｽﾄﾗﾝﾄﾞ緊張)	継部止水工（ｺｰｷﾝｸﾞ、ﾗｲﾆﾝｸﾞ等）
8	継部止水工(ｺｰｷﾝｸﾞ、ﾗｲﾆﾝｸﾞ等)	ケーソン掘削工、水替工
9	蓋取付工	沈下工（床付け時の水平確認状況）
10	躯体出来形	基礎工(割栗石敷設、検測状況及び均しｺﾝｸﾘｰﾄ打設状況)
11	埋戻し転圧工	底版配筋工(上筋、下筋を個別に全体が入るよう撮影すること)
12	防水工	止水板設置工
13	復旧工（撤去復旧した物は個別に撮影すること）	底版コンクリート工(ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ採取状況含む)
14	標識(基礎工含む)、中心杭設置工	頂版ｾｸﾞﾒﾝﾄ搬入状況（個別認定番号）
15	工事完了状況（全景、工事影響部分）	頂版組立状況(蓋取付け・ﾎﾞﾙﾄ締付け・ｽﾄﾗﾝﾄﾞ緊張)
16	その他監督員から指示のあった工程	継部止水工（ｺｰｷﾝｸﾞ、ﾗｲﾆﾝｸﾞ等）
17		埋戻し転圧工
18		防水工
19		復旧工（撤去復旧した物は個別に撮影すること）
20		標識(基礎工含む)、中心杭設置工
21		工事完了状況(全景、工事影響部分)
22		その他監督員から指示のあった工程

別表　3

工事記録写真撮影箇所（鋼製二次製品）

	開削工法	オープンケーソン工法
1	着工前の状況（全景、工事影響部分、撤去物の個別撮影）	着工前の状況（全景、工事影響部分、撤去物の個別撮影）
2	位置決め、仮ベンチマーク設置	位置決め、仮ベンチマーク設置
3	仮囲い工（全景、出入口、広報標識）	仮囲い工（全景、出入口、広報標識）
4	山留工、掘削工、水替工	一次掘削工
5	基礎工	側版ｾｸﾞﾒﾝﾄ搬入状況（個別認定番号）
6	製品搬入据付状況（個別認定番号）	側版組立状況（溶接・浸透探傷試験）
7	本体組立・溶接・浸透探傷試験状況（一体型を除く）	側版完成状況（電気防食棒取付け状況）
8	水槽本体完成状況	側版防錆塗装状況
9	蓋取付工	ケーソン掘削工、水替工
10	躯体出来形	沈下工（床付け時の水平確認状況）
11	埋戻し転圧工	基礎工（割栗石敷設、検測状況及び均しｺﾝｸﾘｰﾄ打設状況）
12	復旧工（撤去復旧した物は個別に撮影すること）	底版搬入組立状況（個別認定番号・溶接・浸透探傷試験）
13	標識（基礎工含む）、中心杭設置工	底版防錆塗装状況
14	工事完了状況（全景、工事影響部分）	底版浮力対策コンクリート工
15	その他監督員から指示のあった工程	頂版搬入組立工（個別認定番号・溶接・浸透探傷試験）
16		頂版防錆塗装状況（防水コーキング）
17		頂版浮力対策コンクリート工
18		蓋取付工
19		埋戻し転圧工
20		復旧工（撤去復旧した物は個別に撮影すること）
21		標識（基礎工含む）、中心杭設置工
22		工事完了状況（全景、工事影響部分）
23		その他監督員から指示のあった工程

別表　4

段階確認区分（現場打設）

	開削工法	オープンケーソン工法
1	位置決め、仮ベンチマーク設置時	位置決め、仮ベンチマーク設置時
2	仮囲い工完了時	仮囲い工完了時
3	山留工、掘削工完了時	一次掘削完了時
4	基礎工完了時	側版型枠、配筋完了時
5	底版配筋完了時	側版コンクリート打設時
6	底版コンクリート打設時	ケーソン掘削、沈下工完了時
7	側版、頂版配筋完了時	基礎工完了時
8	側版、頂版コンクリート打設時	底版配筋完了時
9	躯体工完了時	底版コンクリート打設時
10	埋戻し転圧、復旧工完了時	頂版型枠、配筋完了時
11	設置工事完了時	頂版コンクリート打設時
12	その他監督員が必要と認めた工程	躯体工完了時
13		埋戻し転圧、復旧工完了時
14		設置工事完了時（防水工完了後）
15		その他監督員が必要と認めた工程
16		

別表　5

段階確認区分（コンクリート製二次製品）

	開削工法	オープンケーソン工法
1	位置決め、仮ベンチマーク設置時	位置決め、仮ベンチマーク設置時
2	仮囲い工完了時	仮囲い工完了時
3	山留工、掘削工完了時	一次掘削完了時
4	基礎工完了時	側版セグメント搬入、据付完了時
5	セグメント搬入、据付完了時	側版セグメント組立、止水完了時
6	セグメント組立、止水完了時	ケーソン掘削、沈下工完了時
7	躯体工完了時	基礎工完了時
8	埋戻し転圧、復旧工完了時	底版配筋完了時
9	設置工事完了時	底版コンクリート打設時
10	その他監督員が必要と認めた工程	頂版セグメント搬入、据付完了時
11		頂版セグメント組立、止水完了時
12		躯体工完了時
13		埋戻し転圧、復旧工完了時
14		設置工事完了時
15		その他監督員が必要と認めた工程
16		

別表　6

段階確認区分（鋼製二次製品）

	開削工法	オープンケーソン工法
1	位置決め、仮ベンチマーク設置時	位置決め、仮ベンチマーク設置時
2	仮囲い工完了時	仮囲い工完了時
3	山留工、掘削工完了時	一次掘削完了時
4	基礎工完了時	側版セグメント搬入、据付完了時
5	製品搬入、据付完了時	側版ｾｸﾞﾒﾝﾄ組立溶接、電気防食棒取り付け完了時
6	製品組立溶接完了時(一体型を除く)	側版浸透探傷試験、防錆塗装完了時
7	溶接部浸透探傷試験、防錆塗装完了時	ケーソン掘削、沈下工完了時
8	躯体工完了時	基礎工完了時
9	埋戻し転圧、復旧工完了時	底版ｾｸﾞﾒﾝﾄ搬入、組立溶接完了時
10	設置工事完了時	底版浸透探傷試験、防錆塗装完了時
11	その他監督員が必要と認めた工程	底版浮力対策コンクリート打設時
12		頂版ｾｸﾞﾒﾝﾄ搬入、組立溶接完了時
13		頂版浸透探傷試験、防錆塗装完了時
14		頂版浮力対策コンクリート打設時
15		埋戻し転圧、復旧工完了時
16		設置工事完了時
17		その他監督員が必要と認めた工程
18		
19		

別表　7

撤去工事記録写真撮影箇所及び段階確認区分

	工事記録写真撮影箇所	段階確認区分
1	着工前の状況(全景、工事影響部分)	頂版、側版取壊し実施時及び完了時
2	掘削工	底版、側版孔開け完了時(部分撤去の場合)
3	頂版取壊し工（既存配筋状況)	埋戻し転圧完了時
4	側版取壊し工（既存配筋状況)	その他監督員が必要と認めた工程
5	底版、側版孔開け工(部分撤去の場合)	
6	埋戻し転圧工	
7	工事完了状況(全景、工事影響部分)	
8	その他監督員から指示のあった工程	

横浜市型防火水槽鉄蓋及び受枠仕様

1　防火水槽鉄蓋の仕様及びデザインについて

(1)　仕様は、仕様１（道路用）・仕様２（空地用）・仕様３（デザイン蓋）とする。

(2)　文字、数字、消防章及びスリップ止めは、鋳出しとし、高さは３ｍｍから７ｍｍまでの間とする。

(3)　防火水槽の容量を表す数字の大きさは、縦が 70ｍｍから 120ｍｍまでとし、縦と横の長さの比は２対１とする。

(4)　「防火水槽」及び「横浜市」の文字は、すべてゴシック体とし、大きさは 40ｍｍから 60ｍｍまでの間の直立体とする。

(5)　横浜市以外の者が管理する防火水槽の場合は、仕様１又は仕様２とし、「横浜市」の文字を表記しないこととする。

(6)　消防章の大きさは、400ｍｍから 500ｍｍまでの間とする。

(7)　スリップ止めの大きさは、10ｍｍから 20ｍｍまでの間とし、スリップ防止に効果的な数及び配置とする。

(8)　粉体焼付塗装又は、これと同等以上の強度及び耐久性を有する塗装方法とする。

(9)　蓋の裏面に製造年又はその略号を明記することとする。

2　防火水槽鉄蓋の蓋と受枠構造

(1)【仕様１】（道路用）：道路上や上載荷重が見込まれる場合に使用すること。（T－25）

ア　材質及び構造図は、別紙１によるものとする。

イ　蓋と受枠は、蝶番で連結する構造とし、蓋は 180°開放及び 360°旋回が可能なものとする。

ウ　蓋は、開閉器具用穴１箇所以上及び補助こじり穴を２箇所以上設け、穴の構造は袋式のものとする。

エ　受枠には、転落防止装置を設置する。

オ　転落防止装置は、開閉機能を有し、吸管を２本以上投入できるものとする。

カ　転落防止装置の材質は、ステンレス鋼とする。

キ　受枠は、水槽本体（水槽立管）とボルトにて緊結できる構造とする。（別紙４）

ク　鉄蓋は、210kN の荷重をかけた際に、たわみ 2.2ｍｍ以下、残留たわみ 0.1ｍｍ以下に適応しなければならない。

ケ　鉄蓋は、700kN の荷重をかけた際に、割れ及びひびが起こらないものとする。

コ　蓋表面は、エポキシ樹脂を充填する。

(2)【仕様２】（空地用）：植栽帯や植込み内に設置する場合に使用すること。（T－14以上）

ア　材質及び構造図は、別紙２によるものとする。

イ　蓋と受枠は、連結鎖で繋ぎ、線径６ｍｍのステンレス鎖とし、蓋の開閉に支障がない長さとする。

ウ　連結鎖用穴は、線径６ｍｍの鎖が連結できるものとする。

エ　蓋は、開閉器具用穴１箇所以上及び補助こじり穴を２箇所以上設け、穴の構造は袋式のものとする。

オ　受枠には、転落防止装置を設置する。

カ　転落防止装置は、開閉機能を有し、吸管を２本以上投入できるものとする。

キ　転落防止装置の材質は、ステンレス鋼とする。

ク　受枠は、水槽本体（水槽立管）とボルトにて緊結できる構造とする。（別紙４）

ケ　鉄蓋は、120kN の荷重をかけた際に、たわみ 2.2ｍｍ以下、残留たわみ 0.1ｍｍ以下に適応しなければならない。

コ　鉄蓋は、400kN の荷重をかけた際に、割れ及びひびが起こらないものとする。

サ　蓋表面は、防食性及び耐候性に優れた塗装とする。

(3)【仕様３】（デザイン蓋）：地域特性に応じた場所に使用すること。（T－25）

ア　材質及び構造図は、別紙３によるものとする。

イ　蓋と受枠は、蝶番で連結する構造とし、蓋は 180°開放及び 360°旋回が可能なものとする。

ウ　蓋は、開閉器具用穴１箇所以上及び補助こじり穴を２箇所以上設け、穴の構造は袋式のものとする。

エ　受枠には、転落防止装置を設置する。

オ　転落防止装置は、開閉機能を有し、吸管を２本以上投入できるものとする。

カ　転落防止装置の材質は、ステンレス鋼とする。

キ　受枠は、水槽本体（水槽立管）とボルトにて緊結できる構造とする。（別紙４）

ク　鉄蓋は、210kN の荷重をかけた際に、たわみ 2.2ｍｍ以下、残留たわみ 0.1ｍｍ以下に適応しなければならない。

ケ　鉄蓋は、700kN の荷重をかけた際に、割れ及びひびが起こらないものとする。

コ　鉄蓋のデザインは、別紙５に示すものとする。

サ　鉄蓋のキャラクター（ハマ君）の背景色は、黒色、赤色又は黄色から地域特性に応じた色を選択する。（内側円）

シ　鉄蓋の外側円は、黄色とする。

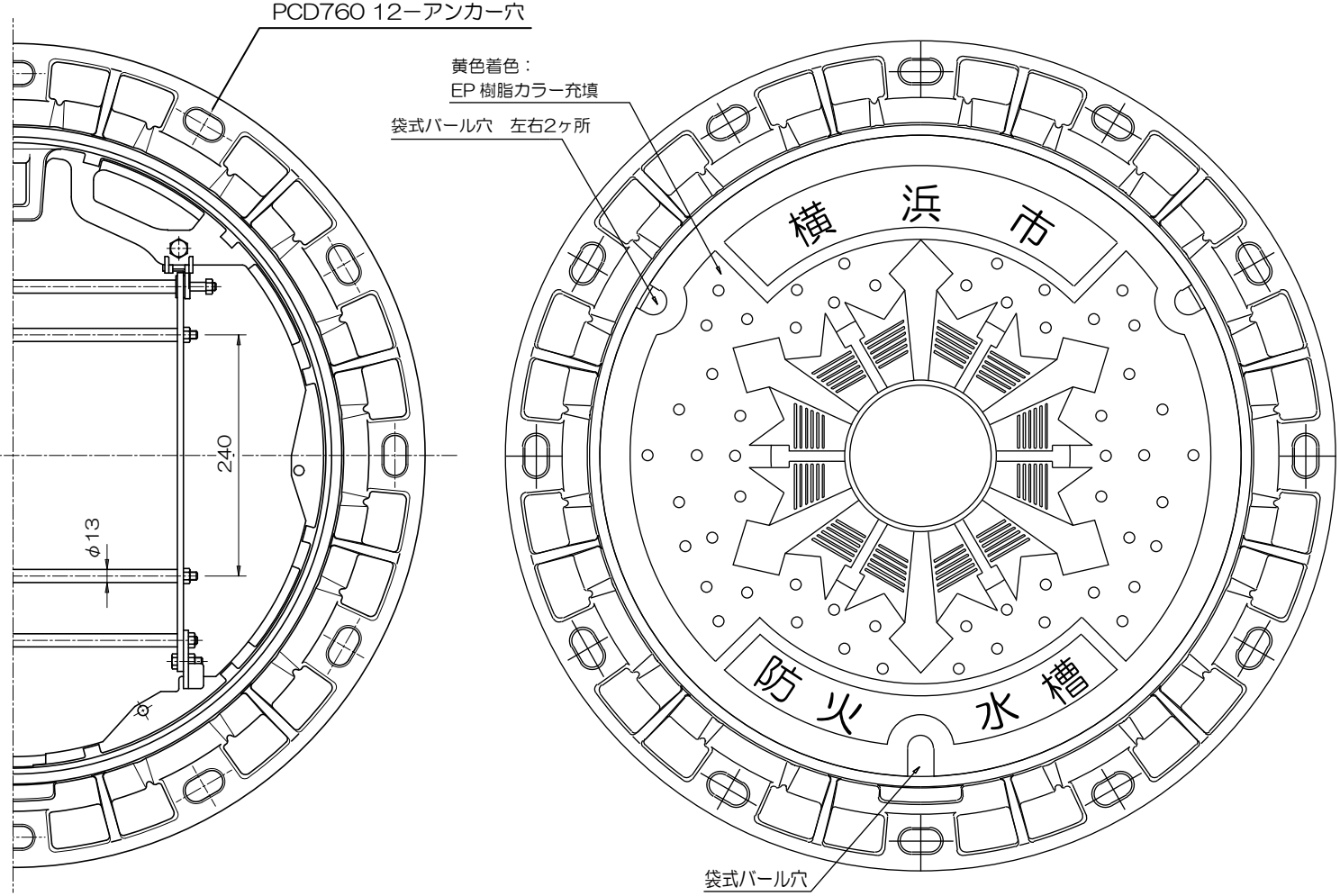
ス　鉄蓋の水量表記は、背景色を青色とする。

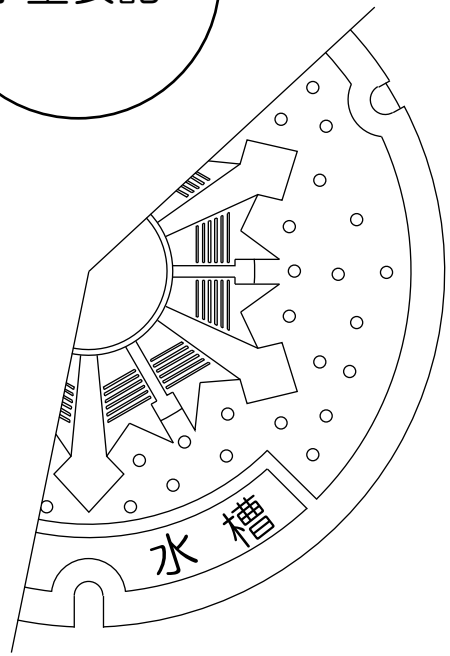
セ　蓋表面は、エポキシ樹脂を充填する。

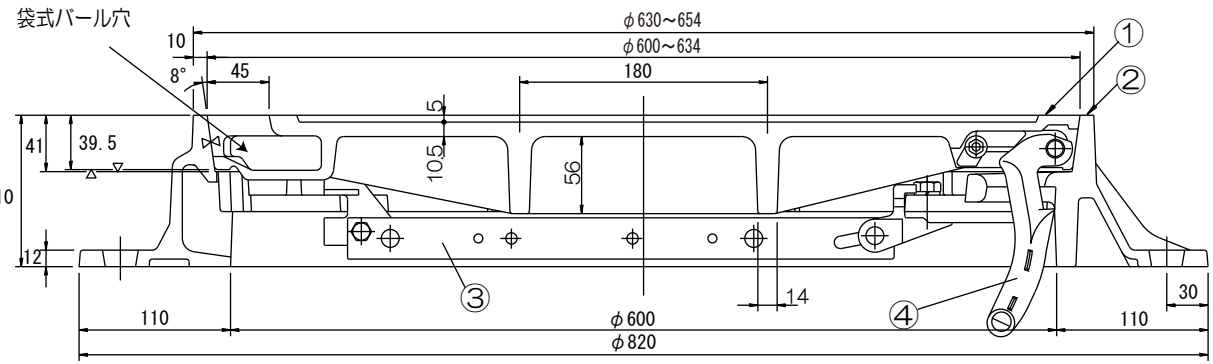
別紙１

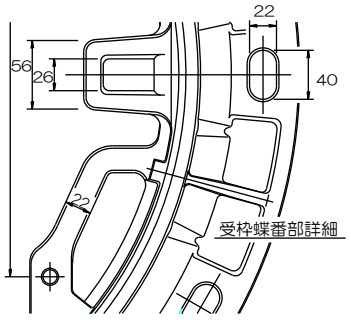
章　　標

水量表記







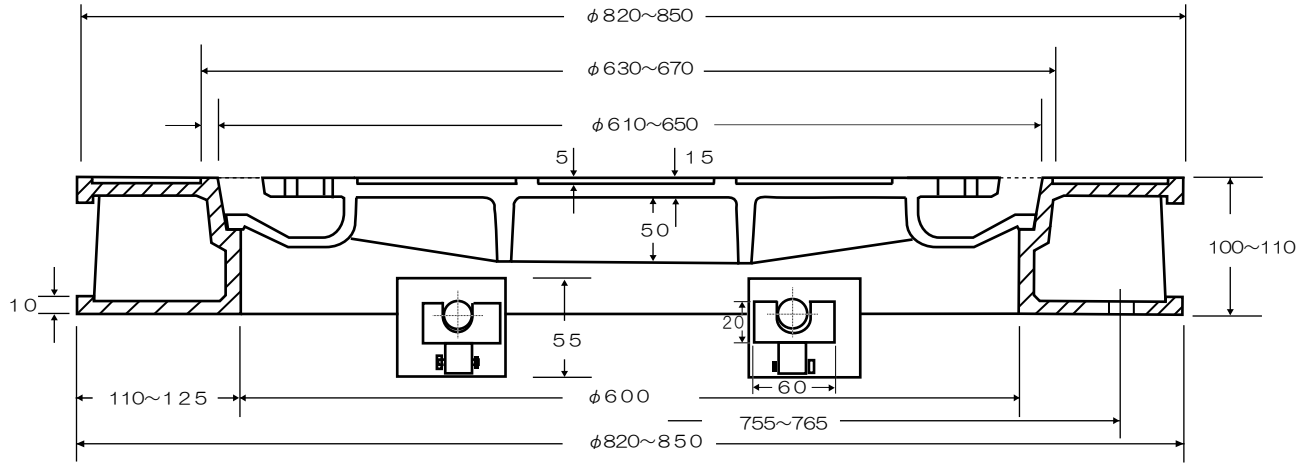


6				
5				
4	蝶　番	1	FCD600	
3	転落防止金具	1	SUS304	
2	受　枠	1	FCD600	
1	蓋	1	FCD700	
品番	品　名	個数	材　質	備　考

型式	
品名	防火水槽鉄蓋　T-25

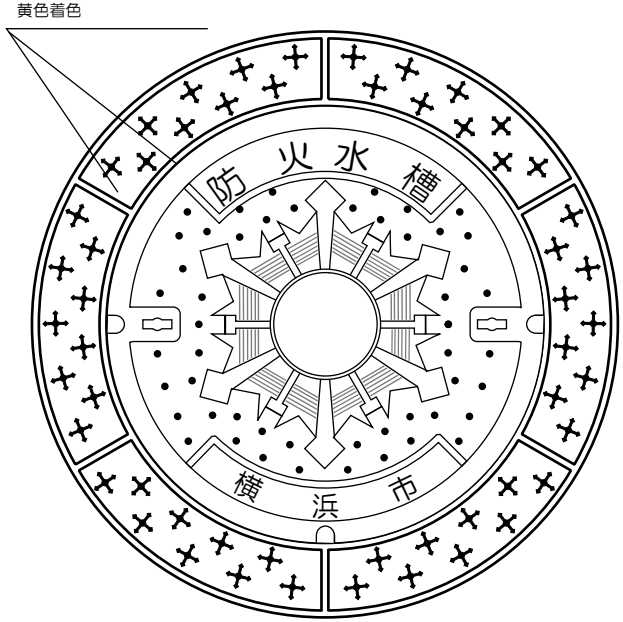
【仕様１】（道路用）

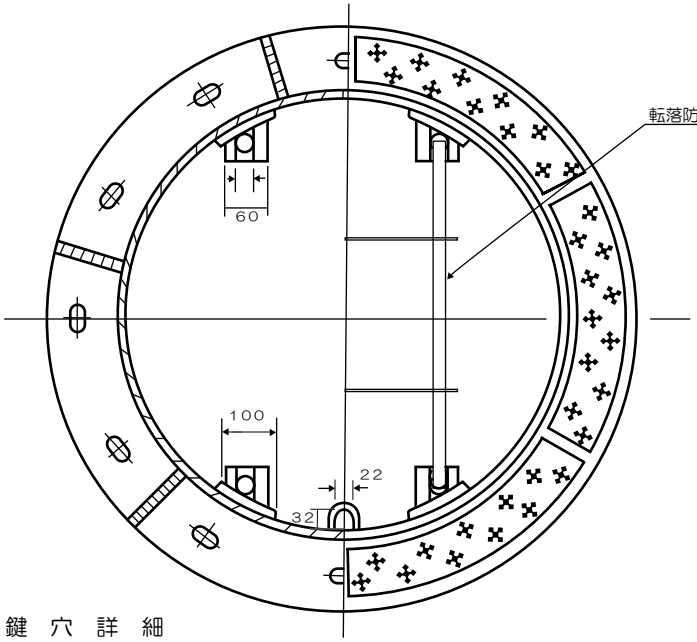
別紙２



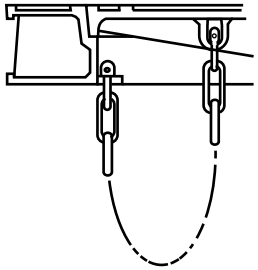
章　　標

水量表記

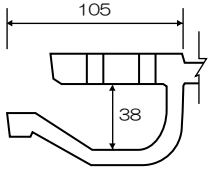




鎖取付図



袋鍵穴詳細

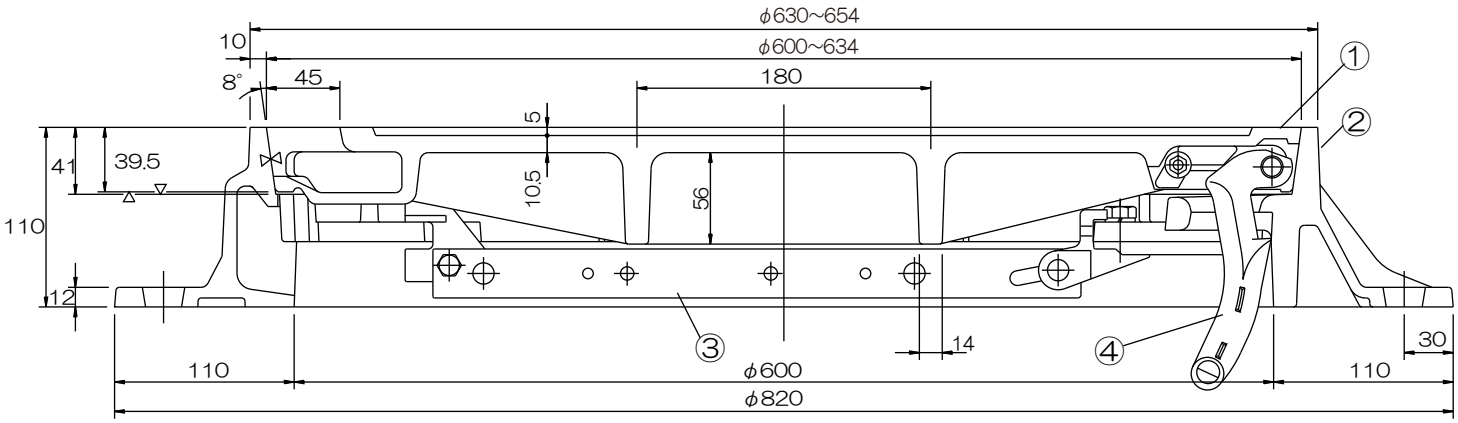


品番	品名	個数	材質	備考
6				
5				
4				
3	転落防止金具	1	SUS304	
2	受　枠	1	FCD600	
1	蓋	1	FCD700	

型式	
品名	防火水槽鉄蓋　T-25

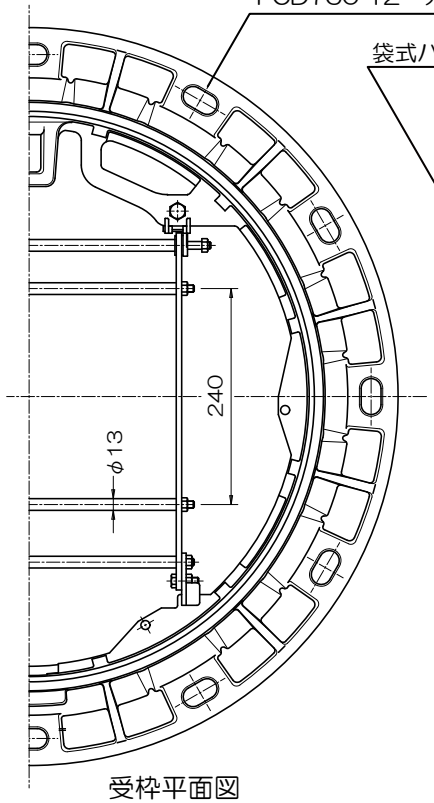
【仕様２】（空地用）

別紙３

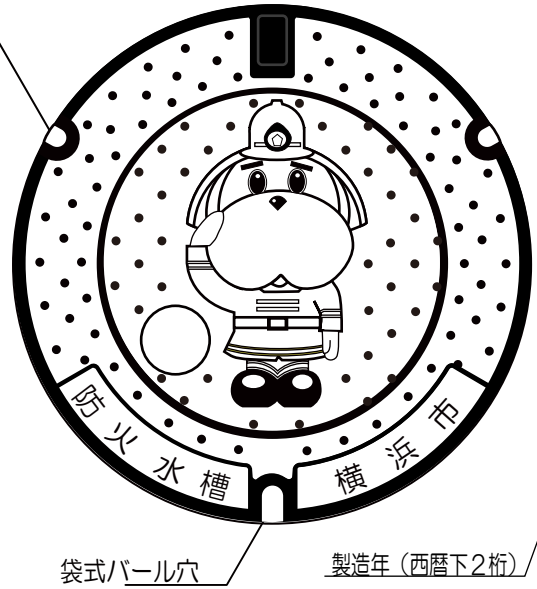


章　　標

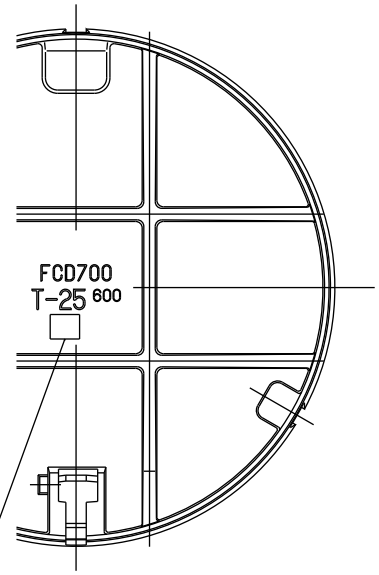
水量表記



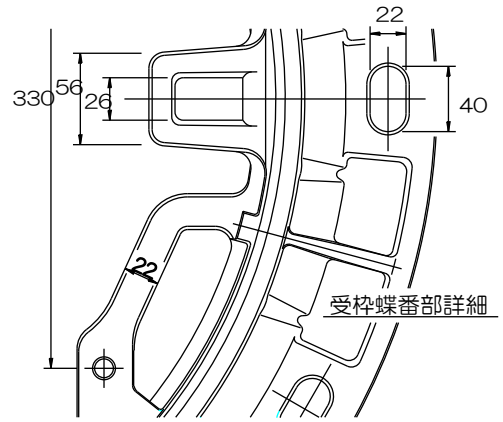
受枠平面図



蓋平面図



蓋裏面図



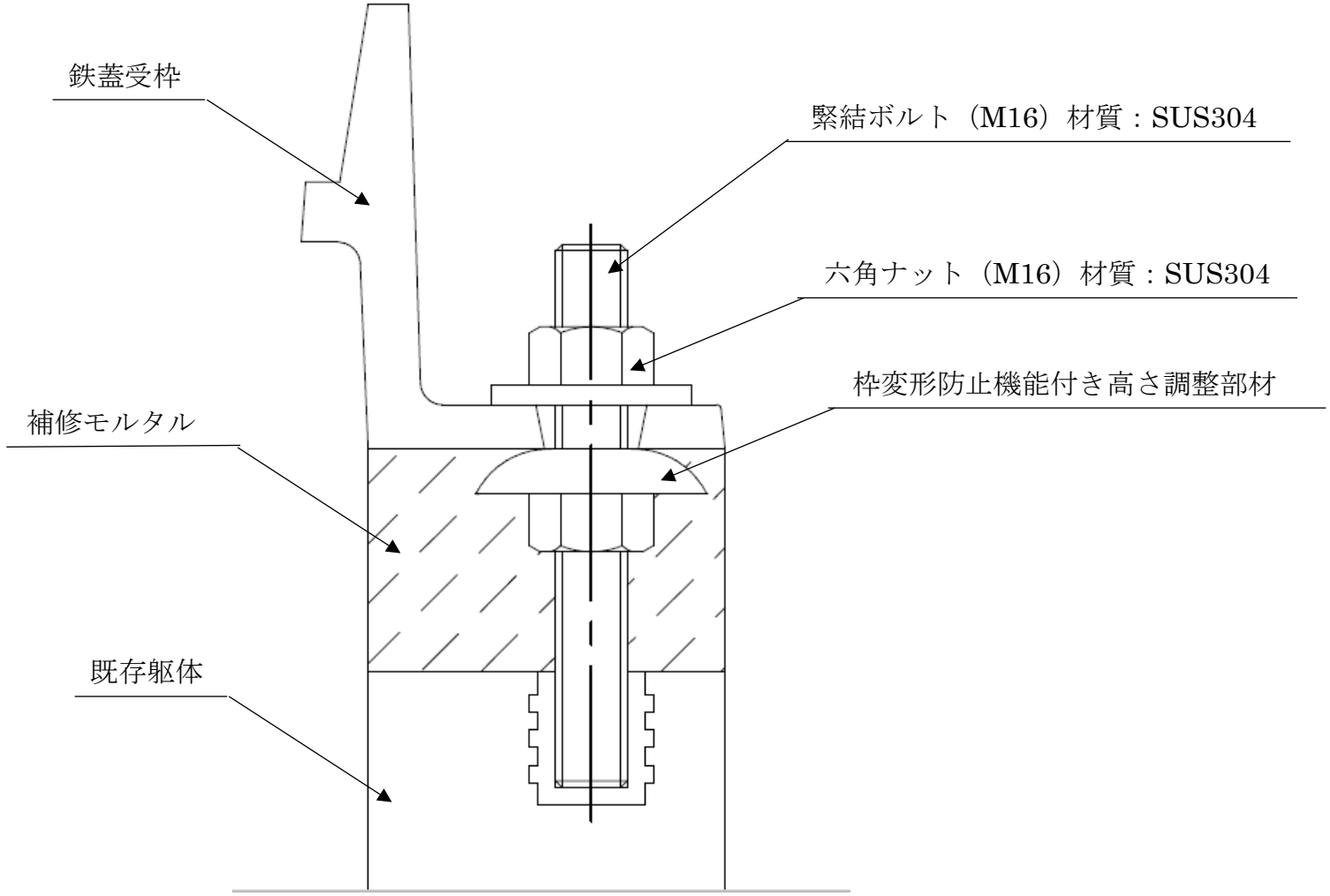
受枠蝶番部詳細

品番	品名	個数	材質	備考
6				
5				
4	蝶番	1	FCD600	
3	転落防止金具	1	SUS304	
2	受枠	1	FCD600	
1	蓋	1	FCD700	

型式	
品名	防火水槽鉄蓋　T-25

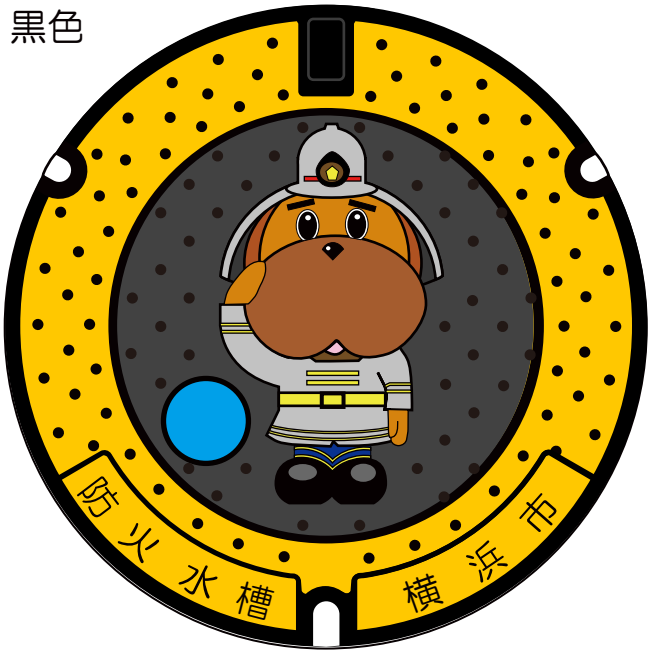
【仕様３】（デザイン蓋）

【受枠固定参考図】



※受枠の固定箇所は３箇所以上とする。

黒色



赤色



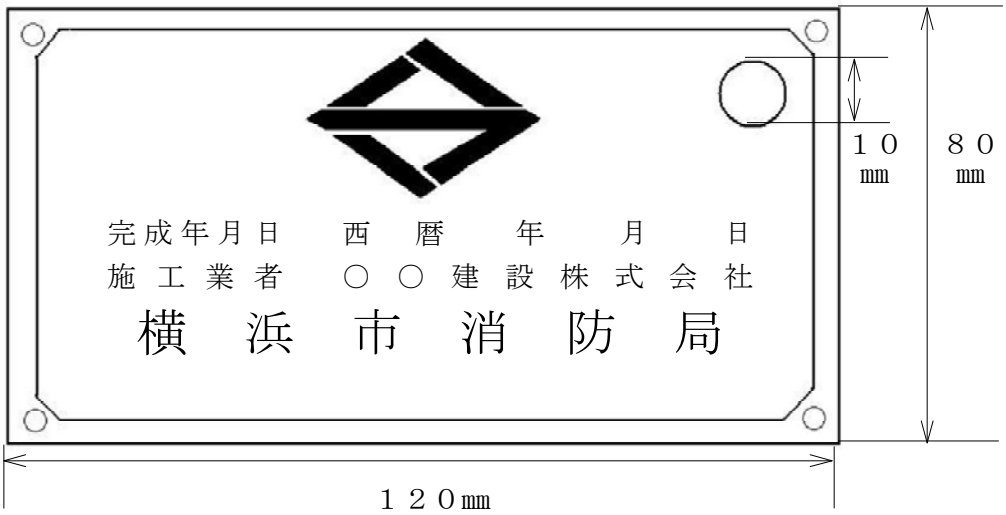
黄色



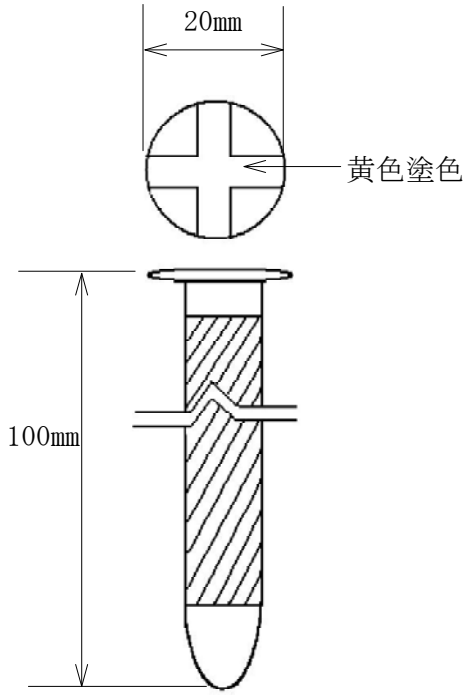
※　黒色のデザイン図では、図柄を示すためにグレー色で示しています。
実際には、黒色になります。

別図　2

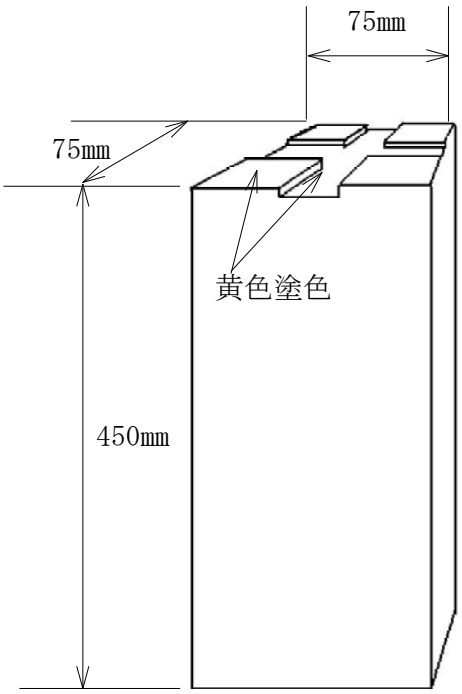
設置年度プレート及び中心杭参考図



1　プレートは、アルミ板と同等以上の素材を使用し、赤地に白文字とする。
2　完成年月日は、竣工予定日とする。
3　右上の○印の中には、当局が発注するものにあっては「消」の文字を記入する。



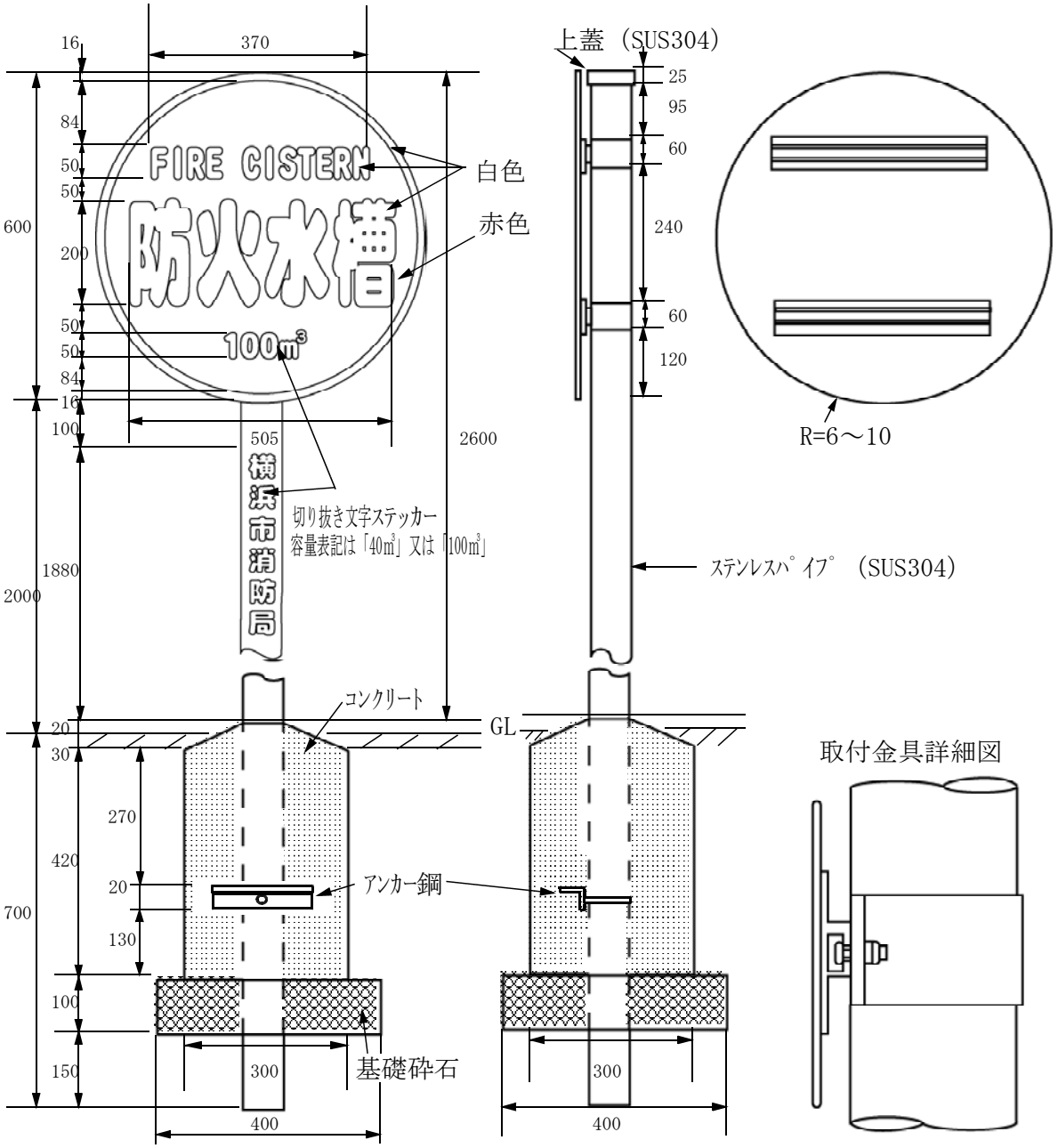
鉄　　鋲



コンクリート標杭

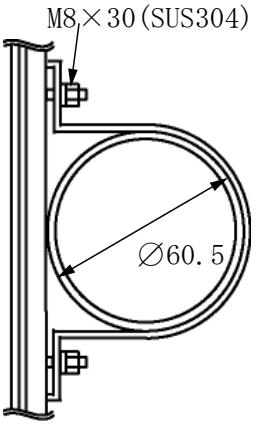
消防水利標識参考図（防火水槽）

正　面　図　　側　面　図　　背　面　図



取付金具詳細図

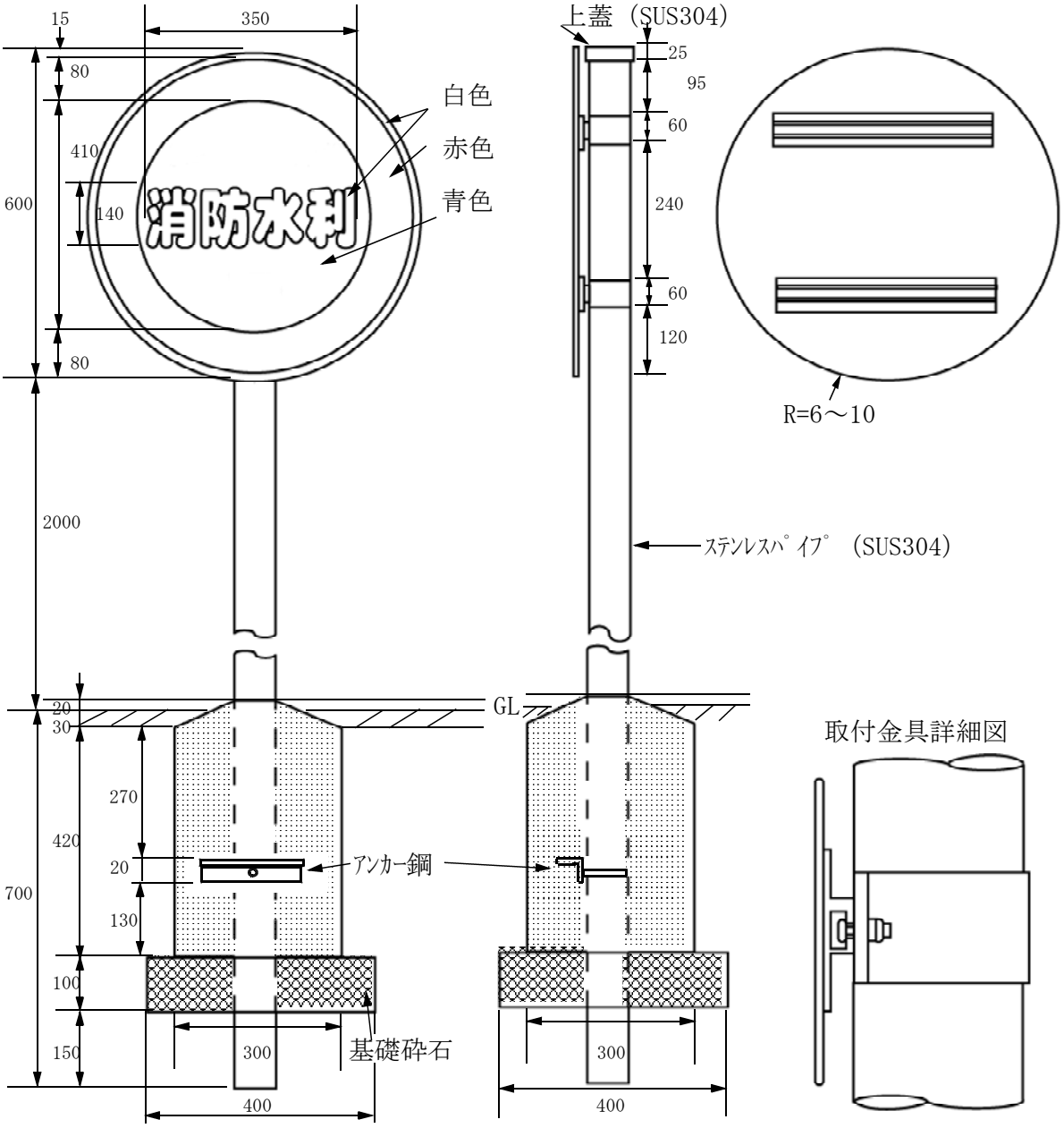
※　標識板は、プリズムレンズ型の高輝度反射板とする。
※　標識板には防火水槽容量を示す「４０㎥」又は「１００㎥」の文字を白色の切り抜き文字ステッカーで表示すること。
※　支柱には「横浜市消防局」の文字を白色の切り抜き文字ステッカーで表示すること。



材　料　表			
品　名	規　格	単位	数　量
標　識　板	アルミ板(t=1.2㎜)	枚	1
支　柱	ステンレス管（SUS304 t=2㎜=∅60.5）	本	1
コンクリート	１８－８	m^3	0.038
基礎砕石	Ｃ－４０	m^3	0.016
アンカー鋼	等辺山形鋼（t=3㎜）	本	1
取付金具	アルミ合金	式	2
取付ボルト	ステンレスボルト・ナット(SUS304 M8×30)	式	2

消防水利標識参考図（指定消防水利）

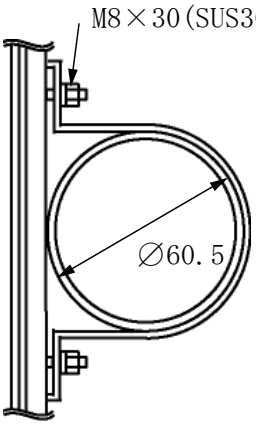
正　面　図　　側　面　図　　背　面　図



取付金具詳細図

※　標識板は、プリズムレンズ型の高輝度反射板とする。

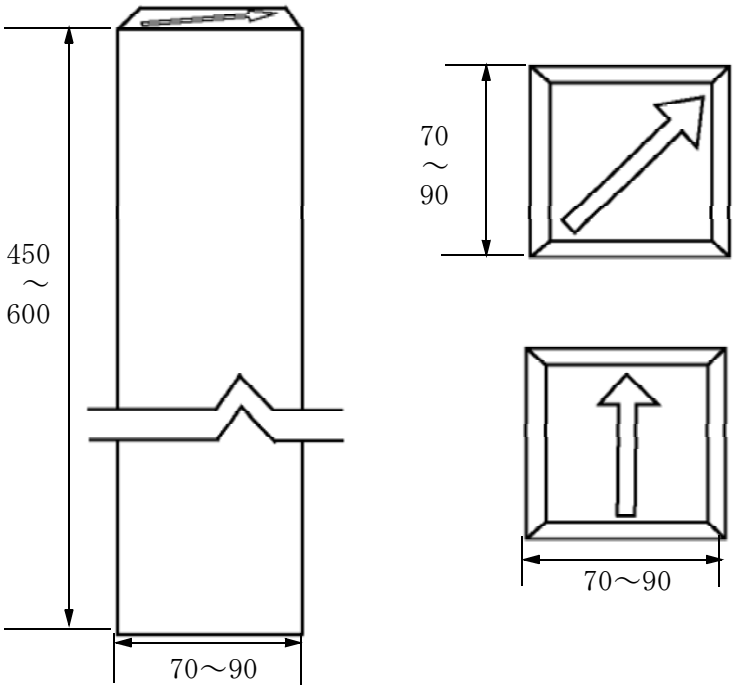
※　取付金具は、ナットを緩めることにより左右に調整できるものであること。



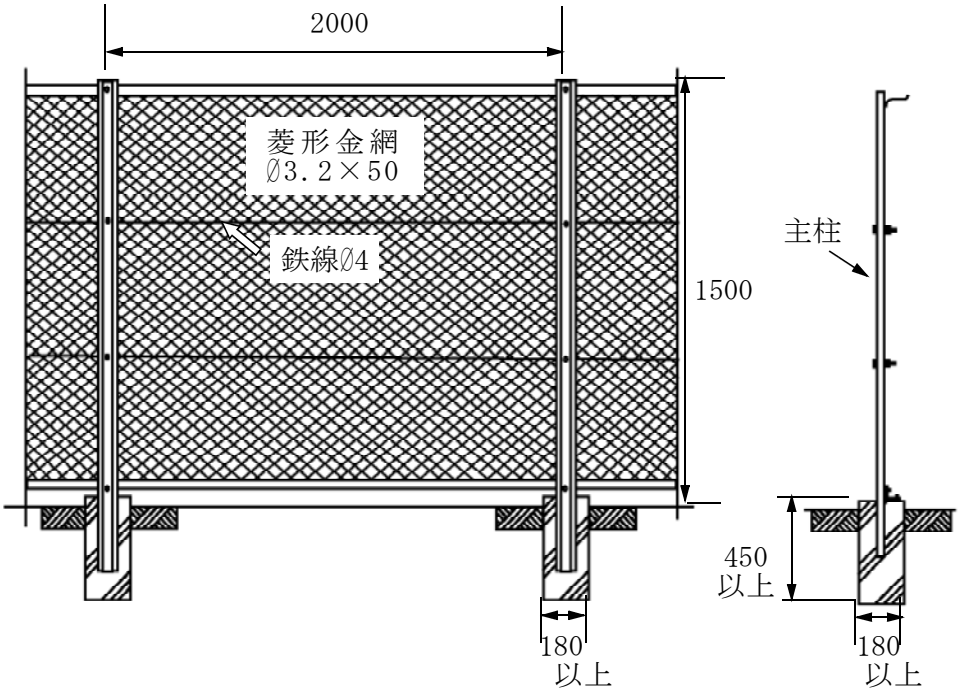
材　料　表			
品　名	規　格	単位	数　量
標　識　板	アルミ板(t=1.2㎜)	枚	1
支　柱	ステンレス管（SUS304 t=2㎜=∅60.5）	本	1
コンクリート	１８－８	m^3	0.038
基礎砕石	Ｃ－４０	m^3	0.016
アンカー鋼	等辺山形鋼（t=3㎜）	本	1
取付金具	アルミ合金	式	2
取付ボルト	ステンレスボルト・ナット(SUS304 M8×30)	式	2

別図　5

境界杭及びフェンス参考図



正面図　　側面図



防 火 水 槽 工 事 仕 様 書

横 浜 市 消 防 局

平成３年６月13日	制　　定
平成５年４月27日	全部改正
平成６年４月１日	一部改正
平成６年７月１日	一部改正
平成７年４月１日	一部改正
平成７年７月１日	一部改正
平成８年４月１日	一部改正
平成８年10月１日	一部改正
平成10年６月１日	一部改正
平成11年６月15日	改　　訂
平成13年５月１日	改　　訂
平成15年６月１日	改　　訂
平成18年５月９日	一部改正
平成22年４月１日	一部改正
平成24年10月19日	一部改正
平成25年10月１日	一部改正
平成27年４月１日	一部改正
令和２年５月１日	一部改正
令和７年４月１日	一部改正

発　　行　横浜市消防局警防部警防課
〒240-0001　横浜市保土ケ谷区川辺町２番地20
TEL　045（334）6409